

【小学校実践事例】

- 1 研究テーマ 「子どもの問いで始まり、問いで深める“戦国の世”」
- 2 単元名 第6学年「戦国の世から天下統一へ」
- 3 本単元で目指す子どもの姿

○ 我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追求・解決しようとする姿を養う。

4 教材開発・単元構成の工夫

(1) 城郭・城下町の様子から見る「戦国の世」（教材開発の工夫）

本単元は、日本の歴史の中でも、武将の活躍や合戦など子どもたちの関心が高く、学習意欲を喚起しやすい単元である。特に、織田信長と豊臣秀吉という二人の人物の働きを追うことで、天下統一という大きな歴史上の主な事象を、人物の功績と結び付けて理解しやすい点に教材としての価値があると考え、本単元を実践の対象として選定した。

本実践では、導入において、教科書に示されている全国的な城郭を扱う前に、子どもたちが生活する愛媛県にある湯築城と能島城を資料として提示した。身近な地域の城郭を取り上げることで、既存の経験を基に学習を始められ、歴史に苦手意識を持つ子どもの学習への心理的な抵抗感を和らげることができた。

そして、地域の城郭と天下統一を進めた武将の城郭を比較し、城の役割や時代背景について考えさせることで、子どもの問いを引き出し、学習問題の設定につなげた。まず、柵や見張り台が多く、戦いに備えた造りが特徴的な湯築城や能島城を提示した後、安土城や大阪城の城下町の様子を示すことで、これらの城が戦いのみに特化した城ではないことに気付かせた。その後、築城された時代背景の違いに着目させることで、安土城や大阪城のスケールの大きさや、そこに住まう人々の暮らしぶりに自然と目が向き、「どのような出来事があり、城の様子が変わってきたのだろう」「この城を築いたのは誰なのだろう」といった問いが生まれた。それらの問いを紡ぎながら、織田信長と豊臣秀吉に出会わせ、城の変容に着目し、二人の功績について考えるという学習の見通しを持たせることで、「信長や秀吉は、どのようにして天下統一を成し遂げたのだろう」という学習問題を設定した。

(2) 子どもの問いを出発点とした学習展開の工夫（単元構成の工夫）

本実践では、見通しを持って主体的に学習に取り組ませるために、子どものつぶやきや疑問、予想や意思などから立てた本委員会が設定する「問い」を基に学習を進められるよう、単元構成を工夫した。また、社会科学習の要である追求意欲を高く持ち、粘り強く学習に取り組ませるために、「学習の見通し」を大切に学習展開を考え、学習問題に対する予想を出し合う時間や、学習計画の立案の時間を十分に保障した。じっくりと資料を見ながら自分の考えを整理し、予想を出し合い、学習計画を立てることは、その後の追求意欲に大きな影響を与えるのではないかと考えたからである。実践の実際は後述する。

追求の場面では、これまでの実践でもよく目にする織田信長と豊臣秀吉のそれぞれの「人物」に焦点を当てるのではなく、「武力」「経済力」「外国との関わり」といった3つの視点で二人の功績を分け、学習を展開した。資料を読み取り、出される子どもの予想を整理した後、その予想をそのまま追求のテーマとすることで、問いの連続性を感じながら、主体性を発揮して追求することができると考えたからである。

練り合い高め合いの場面では、学習のまとめとして、話し合ったことを基に、知識を統合し、再構築しながら、信長と秀吉の社会的役割について考えさせた。「天下統一が成し遂げられた要因」と、「成し遂げた二人の人物」の2つの視点で話し合わせることで、歴史上の主な事象について、より理解が深められるのではないかと考え、単元を構成した（添付資料1）。

5 学習指導方法の工夫・改善

子どもが単なる感覚や経験だけでなく、資料に基づいて考えを整理し、根拠を持った予想を立てられることは、学習に見通しを持たせるだけでなく、対話の中で他者との認識のずれを感じたり、「もっと詳しく調べたい!」という追求意欲を高めたりするのに非常に重要である。

(1) 資料を基にした根拠ある予想を引き出すための工夫

これまで、本学級の子どもたちに、「これらの資料を見て、学習問題に対する予想を書きましょう」と典型的な発問をしても、どの資料から予想をしたのかが不明瞭であったり、単に気付いたことを記述したりする子どもが多かった。そのため、本単元の第2時では「予想カード」を開発し、活用することで、

その後、子ども自身が立てた一つ一つの予想を使って、学習問題に対する自分なりの予想を書かせた。この活動を取り入れることで、子どもたちは、自分の立てた予想をもう一度振り返り、考え直したり、予想と予想を紡ぎ合わせたりしながら、学習問題に対する自分なりの予想を記述していった。**資料1**のA児は、各資料から、武力の高さや外国との関わりに着目して、予想を立てていることが分かる。学習問題に対する自分の予想を書く欄には、「すごい力」と曖昧な記述はあるものの、「天下統一には外国との関わりが関係しているのではないか」と、資料を根拠にして予想を記述することができている。

一方、C児は、予想できなかったところについて記述していた。C児のように、資料から気が付くことは書いても、予想にまでつなげることが難しい子どももいた。指導者側の資料の精選や提示の仕方が不十分であったことが分かり、次時の学習の手立てを考えることにつながった。

◎ 各資料を見て、学習問題に対する予想を考えましよう。		
資料番号	気付くこと	予想
①	外国人がいる。 船に荷物を入れている。	外国と貿易をして、外国人も 天下統一に関わっている？
資料番号	気付くこと	予想
②	船で荷物と運んで いる。	外国と貿易をしているとち う？
資料番号	気付くこと	予想
③	戦っている。 弓やてっぽうを使っている。	戦って、勢力をのばしている？ 外国人を味方につけた？
資料番号	気付くこと	予想
④	武田、織田、毛利が 力を持っている。	信用されてる＆強いから、領 地をたくさん持っている？
資料番号	気付くこと	予想
⑤	1560年から豊臣秀吉が織 田に代わって力を持つ。	さらに強くなって、天下統一 をした？
資料番号	気付くこと	予想
①	救が金ばくのとこ ろがある。	ものすごい勢力を持ってい た？

◎ 学習問題に対する予想を自分なりにまとめてみよう。

①の資料から、外国人が多かった。また、②の資料では、外国と貿易をしているように思えたから、天下統一は外国人が関わっていると思った。あと、安土城が金ばくのことから、織田や豊臣がものすごい力を持っていたから、天下統一をすることができると思った。

C児：(中略) 商売をしている人のことと、外国人が歩いていることが、天下統一にどう関係しているかは分かりませんでした。

資料1 子どもが記入した「予想カード」(左:A児、右:B児C児)

(2) 予想を紡ぎ、見通しのある学習計画を立てるための工夫

そこで、協働学習アプリの共有ノートを活用して、小集団で予想を共有し、グルーピングする活動を取り入れた（資料2）。前時で「商売をしている人のことと、外国人が歩いていることが、天下統一にどう関係しているかは分かりませんでした」と書いたC児は、他の友達との対話の中で、「外国と商売して経済を活性化したのかな。それでお金を稼いだのかな？」と、資料から気が付いたことを自分なりに予想まで高めることができていた。小集団で出し合った予想をさらに全体で共有したことで、学級全体の追求テーマとして「武力」「経済力」「外国との関わり」の3つのテーマに分けることが

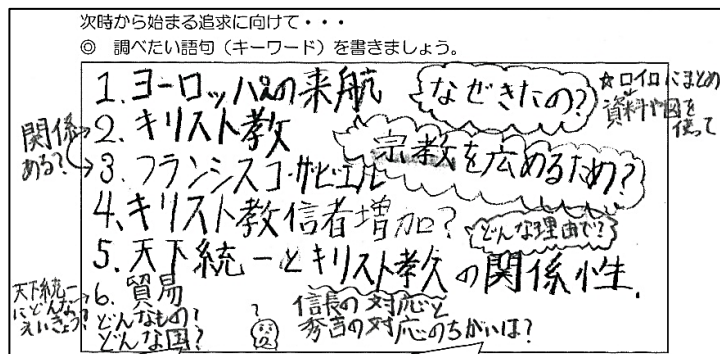


資料2 小集団でまとめた共有ノート

できた。

その後、どの追求テーマから学習問題に迫るかを決めさせた。その際に活用したのが「学習計画カード」である（添付資料3）。なぜその追求テーマを選んだのか、その理由を書かせることで、学習問題に対する自分の思いを改めて考えさせた。そして、選んだ追求テーマについて、これから何を、どの順番で、どんな方法で調べ、それらをどのようにまとめていくかを考えさせた。学級に設置している「信長・秀吉の図書コーナー」の書籍や教科書を見ながら、追求の見通しを持たせることができた。

資料3は、D児が書いた「学習計画カード」（一部抜粋）である。D児は、「外国との関わり」の視点から、どのように天下統一が成し遂げられたのかを追求することにした。教科書を見ながら、どの語句が自分の追求テーマと関係があるかを考え、どのような流れで調べるか番号を書いている。また、語句の把握だけでなく、「なぜ来たの？」とその背景に関心を持ったり、「宗教を広めるため？」と自分なりに予想を立てたりして、主体的に追求に向かおうとする姿が見られる。そして最後は、「天下統一とキリスト教（外国との関わり）の関係性」を調べると記述し、学習問題の解決に向けて、見通しを持っていると判断した。



資料3 D児が記入した「学習計画カード」（一部抜粋）

しかしながら、学習計画を立てることに課題がある子どもの姿が見られたのも事実である。教科書を見て、自分の追求テーマに関する記述はどこにあるかを見付けられる子どもは少なく、指導者側の声掛けが必須であった。また、「楽市・楽座」「石見銀山」「検地」など、子どもにとってあまり馴染みのない言葉を目にし、それがどの追求テーマに関するものなのか、判断することが難しい様子であった。そのため、この学習計画の立案に際して講じる手立てについては、再考が必要であると感じた。

(3) 自己の学びを振り返り、次の追求に生かすための工夫

個の追求の場面では、「追求カード」を活用し、追求成果をまとめ、振り返らせた（添付資料4）。この「追求カード」の開発にあたっては、以下の実態を鑑みて行った。

- ① 本学級の実態として、追求の見通しが甘く、追求の途中で何を調べたらよいのか分からなくなったり、学習問題に立ち返って考えられなかったりする姿があまり見られないという課題があった。
- ② 令和4年度の学習指導要領実施状況調査の結果より、全国的に「問題解決の見通しを持つ」ということに課題が指摘されていたが、本学級にも当てはまると感じる。

どちらも、本学級の実態に依るものではあるが、見通しを持って追求を続けられる授業を構想していくことは、今後指導者に強く求められる点であると考えている。子どもが問題解決の見通しを持つためには、子ども自身が学習問題を考えたり、予想を立てたりして見通しを持つとすること、つまり子ども自身が問いを紡ぎながら学習を進めていくことが大切であると考えた。

そのため、この追求カードを開発し、活用することで、追求した成果を振り返り、学習問題に対する自分の考えを自分の言葉で説明させる活動を取り入れることとした。さらにその後、自分が調べられたこと（分かったこと）と、調べられなかったこと（分からなかったこと、気になること）を考えさせる活動を行ったことで、見通しを持って追求を行えるようにした。その際に、この「追求カード」を活用したことは、ある一定の効果があつた。

資料4は、E児が記入した「追求カード（1回目）」である。E児は「武力」をテーマに追求した。「鉄砲」「三段打ち」「商業都市」「資金」など、自分が調べた語句を使って、「武力」を用いてどのように天下統一を目指したのかを説明しており、学習問題に対する自分の考えを述べている。

資料5は、「経済力」をテーマにしたF児が記入した「追求カード」（1回目と2回目）である。1回目では、次に調べたいこととして、秀吉が命じた刀狩を挙げており、刀狩が二人の天下統一にどのような影響を及ぼしたかを調べた

◎ 上の語句（キーワード）を使って、学習問題に対する自分なりの答えを書いてみましょう。 例）信長（秀吉）は～して、天下統一を目指した。

信長は商業都市を支配することで、豊富な資金が手に入り、鉄砲などの武器をそろえ、軍を強くしていきました。また「三段打ち」など、信長流の戦い方をして、武力で天下統一を目指しました。

資料4 E児が記入した「追求カード」

いと記述し、学習問題をしっかりと意識して追求していることが分かる。2回目の記述では、刀狩がどのような目的で行われ、どのような影響があったか調べることができている。このように、追求カードが次時の自分への橋渡しとなり、「今日はどのようなことを調べたいか（調べるべきか）」が分かり、見通しを持って、追求することにつながった。

また、個の追求を進めていく中で、「鉄砲のことを調べていたら、外国と関わっていることが分かった」や「石見銀山の銀のゆくえについて調べていたら、ヨーロッパやアジアの国名が出てきた」など、「3つの追求テーマが関わり合っているのではないか」との記述が振り返りに見られるようになってきた。先述のE児は、追求を続けていく中で、鉄砲（武器の視点）の大量購入には豊富な資金が必要で（経済力の視点）、外国との交易（外国とのかかわりの視点）が関わっていることに気が付き、追求2回目の振り返りでは、「武力と経済力と外国とのかかわりの3つがそろったから、天下統一ができたのではないか」と自分の考えを記述していた。

(4) 問いを生かした練り合い高め合いの充実

それらの問いを紡ぐ形で、追求の報告会を行った。報告会では、調べたことを学級全体でウェビングマップにまとめた（資料6）。ウェビングマップにまとめたことで、一つの事柄が複数の追求テーマに関連していることが分かり、自分がこれまで調べてきた視点を変えて、歴史上の主な事象を考える体験につながった（資料7）。

◎ 今日の自分の学び方はどうだったか。
次の時間で追求したいこと（まだ分かっていないこと、気になっていること）
例）まだ○○のことが分かっていないので、そのために△△していきたいです。

秀吉が行った刀狩のことがまだ分かっていないので、次に調べたいです。この政策によって、人々にどのような影響があり、天下統一に向けてどのようなメリットがあるのかも追求していきたいです。

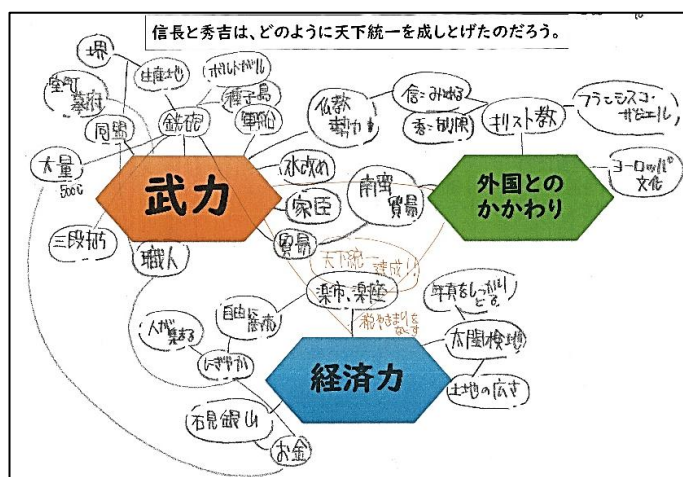
↑ 次時に調べたいこと（追求1回目に記入）

◎ 上の語句（キーワード）を使って、学習問題に対する自分なりの答えを書いてみましょう。例）信長（秀吉）は～～して、天下統一を目指した。

秀吉は刀狩令を出すことによって、百姓が反乱をできないようにしました。また、農業に集中させることで、生産性を向上させ、社会を安定させる目的もありました。また、石見銀山を支配下におくことで財源を…（略）

↑ 調べたこと（追求2回目に記入）

資料5 F児が記入した「追求カード」のつながり



資料6 子どもと共にまとめたウェビングマップ

- 信長と秀吉の二人が天下統一を成し遂げられたのは、武力・経済力・外国の3つがバランスよく関わり合ったからだと考えます。調べ始める前は、武力が一番大切だったと考えていましたが、追求を続けたり、友達の話の聞いたりして、必ずしもそうではないことが分かりました。鉄砲は、外国との関わりの中で日本に伝えられ、外国から輸入されていました。その資金は、商業都市や石見銀山などの鉱山を支配したり、経済政策を行ったりすることで手に入れたことが分かりました。このように3つの追求テーマすべてが絡み合って、天下統一ができたということが分かりました。この時代についてよく知ることができたのでうれしかったです。
- ぼくは、天下統一は武力があればできると思っていましたが、そうではないということが話合いで分かりました。武力の強さを保つためには、お金が必要で経済力も欠かせません。また鉄砲をたくさん買うためには、経済力だけではなく、外国との貿易も必要です。武力と経済力、外国との関わりとの3つのどれかが欠けたら、天下統一は成し遂げられていなかったと思います。もし、天下統一が成し遂げられていなかったら、今の日本も変わった姿だったのかなとも思いました。

資料7 報告会を終えて子どもが記述した社会科日記

報告会を終えた子どもたちの感想の中に「二人が共通する政策を行ったこともあれば、キリスト教への対応のように、異なった考えを持っていることが分かった」や「信長は、鉄砲をとて効率的に手に入れ、積極的に使っていて、賢い人だったのかな」などの二人の人物像に問いを持つ記述が見られた。それら子どもの問いを紡ぎ、練り合い高め合いでは、「天下統一までの功績から、二人はどのような人物

であったと言えるのだろうか」と問い、二人の人物像に迫ることにした。

その上で、本単元のまとめとして、二人はどのような人物だったと言えるか「信長（秀吉）は〇〇な人！なぜなら・・・」の形で子どもに表現をさせた（資料8）。

【織田信長に対する記述】

- ・信長は創造力が豊かな人だと思います。新しい兵器である鉄砲にいち早く目を付け、大量に手に入れる仕組みを作ったり、楽市・楽座の政策で、経済力を高めたりするなど、新しいことをどんどんやった人だからです。
- ・信長は計画力があり、アイデアマンだと思います。なぜなら、鉄砲があまり使われていない時に、「鉄砲が強い」と分かれば、堺の街を支配したり、鉄砲の生産地を押さえたりして大量の鉄砲を手に入れたからです。その鉄砲をどのように使えば有効かと考えるところも、アイデアマンならではのと思いました。
- ・信長はたくさんの兵を従え、命令に忠実な兵が多く、統率がしっかり取れていることから、兵からも信頼されていて、高いコミュニケーション能力を持った人だと思います。また、古い戦法や文化にとらわれず、新しい武器や戦術、政治を行っていたことから、古い考えにとらわれない、自由な性格だったのかなとも思いました。

【豊臣秀吉に対する記述】

- ・秀吉は、とても用心深く慎重な人だったと思います。調べ学習で、秀吉は水攻めや兵糧攻めを多くしていることが分かりました。このように直接的な戦闘を避けたり、キリスト教を制限したりするなど、自分の政治に影響しかねないものを無くそうとする姿が見られるからです。さらに検地を行い、確実に年貢を納めさせるなどの政策も、秀吉の慎重さが感じられました。
- ・秀吉は、他の大名が自分よりも強くなることを許さない、負けず嫌いの人だと思いました。なぜなら、検地をして土地の広さを測り年貢をしっかりと取ったり、他の大名が力をつけようキリスト教を制限したりしているからです。ただ、信長の政策を引き継いでいるところもあることから、信長のことは尊敬するなど、一目置いた存在だったのかもしれない。

資料8 練り合い高め合いで子どもが記述した二人の人物像

上記の子どもの記述を見てみると、練り合い高め合いを行ったことで、語句そのものの意味の理解で留まっていたものが、政策の背景や影響についても理解を深め、これまで追求したことを根拠に、二人の人物像を表現しているのが分かる。

6 評価の工夫

本実践における「主体的に学習に取り組む態度」の見取りと評価は、評価と授業の指導を一体化させる観点に立ち、学習評価全体を計画的に実施した。こうした評価の視点は、文部科学省国立教育政策研究所が示す『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編・社会科）』の考え方に着想を得ている。

(1) 学習の各場面を通して見取る「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方

本単元では、予想の設定～学習計画の立案、個や小集団の追求の2つの場面で、子どもの姿を見取り、「主体的に学習に取り組む態度」（以下、主態）の評価を行った（添付資料5）。以下に示すのが、それぞれの場面の評価基準及びその方法と見取る際のポイントである。

ア 予想の設定～学習計画の立案の場面で見取る

学習問題に対する予想の設定から、追求テーマを決め、解決に向けた学習計画を立案するまでを一連のプロセスとして捉え、自らの学びを調整しようとする姿を評価することとした。子どもが、自らの予想を基に追求していくために、必要な資料や調べる方法を考え、解決の見通しを持つ過程に着目することで、主態の変容を明確に捉えることができるのではないかと考えた。その際、子どもの様子を見取るポイントとしてまとめたものが資料9である。予想の設定の場面では、複数の資料から事実や特徴を読み取り、複数の視点で予想を立てているか、学習計画の立案の場面では、その予想を基に、見通しのある学習計画を立てているかといった見通しの「具体性」、「追求意欲」を一体的に評価する。主に「予想カード」や「学習計画カード」、班活動の様子を見て、子どもの姿を見取った。

また、本実践では、評価を「指導の成果」と「次時の授業改善に向けた指標」の両面から捉えるため、従来のABC評価に代わり、「発展的」「標準的」「工夫を要する」の3段階を用いることにした。学習が深化している状態を「発展的」、ねらいが達成されている状態を「標準的」、指導の手立てを再考すべき状態を「工夫を要する」とし、特に「工夫を要する」については、教員の指導における改善の余地を示す前向きな指標として位置付けた。

発展的な子どもの姿	標準的な子どもの姿	工夫を要する子どもの姿
複数の資料から読み取った事実や特徴を基に、予想している。また、その予想を基に、追求テーマを決め、追求する事柄や方法、まとめ方について具体的に考え、見通しのある学習計画を立てている。	資料から読み取った事実や特徴を基に、予想している。また、その予想を基に、追求テーマを決め、追求する事柄や方法、まとめ方が示された学習計画を立てている。	資料に触れず、予想があいまいである、または書けていない。また、自分が選んだ追求テーマの理由や計画があいまいで、学習問題の追求につながっていない、または書けていない。

資料9 予想の設定～学習計画の立案の場面での「主体的に学習に取り組む態度」を見取るポイント

イ 個や小集団の追求の場面で見取る

個や小集団の追求の場面での主態の評価基準を、「織田信長と豊臣秀吉の天下統一について、学習を振り返ったり、見直したりして、学習問題を追求し、解決しようとしている」と設定した。その際、子どもの様子を見取るポイントとしてまとめたものが**資料10**である。追求する過程で、計画を見直すなど、「主体的に」取り組めているか、また自身の追求を振り返り、それらを「新しい問いと関連付け、課題を広く深く解決」しようとしているかを評価する。主に、追求する姿や「追求カード」で子どもの姿を見取るようにした。

発展的な子どもの姿	標準的な子どもの姿	工夫を要する子どもの姿
計画を見直しながら主体的に追求し、振り返りを行い、それらを新しい問いを関連付けて深め、課題を広く深く解決しようとしている。	計画に沿って追求しながら、振り返りや見直しを行い、新しい問いや次につながる課題を見いだしている。	計画に沿った追求が不十分で、学習につながりがない。次に追求したいことが書かれていない、または学習問題と結び付いていない。

資料10 個や小集団の追求の場面での「主体的に学習に取り組む態度」を見取るポイント

上記の場面で子どもの姿を見取り、総括的評価を行った。評価方法だけでなく、指導者が子どものゴールイメージをあらかじめ設定しておくことで、実践前にどのような姿をどのように見取り、指導や評価に生かすのかが把握でき、より具体性のある指導につながられた（**資料11、12**）。

A	B	C
予想・計画・追求のいずれの場面においても、主体的に取り組む、学習問題の解決に向けて粘り強く学習している。	予想・計画・追求の場面でおおむね主体的に取り組んでおり、追求の見直しや問いの設定の具体性は限定的である。	予想・計画・追求のいずれか、もしくはすべてにおいて、主体的に取り組む姿が不十分であり、学習問題の解決に向けた取組が弱い。

資料11 3つの場面を総括的に見取る際の「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準

- 単元計画の中で、特に「予想の設定～学習計画の立案」「個や小集団の追求」の2つ場面の子どもの姿を見取り、主態を評価する。
- ただし、追求の場面で伸びが顕著に見られた場合は、一段階、総括的評価を上げることもある。
 - ・「追求する姿」や「追求意欲」を重視したいと考えるため。
 - ・成長の過程も評価に含めたいと考えるため。
- 観察（活動する姿）とワークシート（記述）の両方で見取り、評価の裏付けを取る。

資料12 総括的評価をする際の留意事項

上記に示すのが、実際の子どもの記述とその評価である（**資料13**）。どれも単元構想の際に決めた見取りのポイントに沿って、子どもの姿を見取り、評価を行ったものである。「予想カード」や「学習計画カード」、「追求カード」を開発したことで、子どもの様子だけではなく、記述からも子どもの姿が見取りやすくなり、日々の指導だけでなく、評価にも生かすことができた。

	A児	B児	D児	E児
予想の設定の場面における 子どもの記述（評価場面①―1）	①の資料から、外国人が多かった。また②の資料では、外国と貿易しているように思えたから、天下統一は外国人が関わっていると思った。また、安土城は金箔を貼っていたことから、織田や豊臣はすごい力を持っていたから、天下統一ができたと思った。（資料1）	資料③では、信長の軍が大量の鉄砲を使っていることから、他の大名より多くの鉄砲を使うことで戦に勝ち、天下統一をしたのだと思う。資料①から分かるように、町には外国人や船がたくさんあるため、外国との交流が盛んで、鉄砲も輸入したのかもしれない。	戦いによって力を強めるのではなく、資料①や②のように、城に金箔を貼ったり、強大な城を建てたりすることで自分の力を見せつけていることが分かる。戦いでも、相手が予想していな量の鉄砲を使って圧倒していたのではないだろうか。	資料①より、安土城では商売をしている人がたくさんおり、外国の人も見える。このことから、経済が活発で、外国とも貿易をしていたのではないだろうか。また、資料③より、相手は鉄砲を使っているようには見えないので、「鉄砲」も大事な言葉かもしれない。また織田軍の中には、徳川家康などいるので、他の有名な大名とも協力して、天下統一を目指した可能性もある。
学習計画の立案の場面における指導者の見取り （評価場面①―2）	テーマ【外国との関わり】 ・班で共有したことを基に、追求テーマを決めている。 ・追求する語句を見付け、記載している。 ・調べる順番やまとめ方など、見通しの面では不十分なところがある。	テーマ【武力】 ・班で共有したことを基に、追求テーマを決めている。 ・追求する語句を見付け、記載している。 ・調べる順番やまとめ方など、見通しの面では不十分なところがある。	テーマ【外国との関わり】 ・班で共有したことを基に、追求テーマを決めている。 ・追求する語句を見付け、記載している。 ・調べる順番やまとめ方など、見通しを持って、学習計画を立てている。（資料3）	テーマ【経済力】 ・班で共有したことを基に、追求テーマを決めている。 ・追求する語句を見付け、信長と秀吉に分けて記載している。それらについての疑問を記載しており、今後調べる手立てとしている。
	標準的	標準的	発展的	発展的
個や小集団の追求の場面における 子どもの記述（評価場面②）	信長や秀吉は、外国（スペインやポルトガル）と貿易をして、外国との関わりを持っていたことが分かった。さらに、外国から伝えられた鉄砲を活用し、戦い方を変え、武力を高めたことで、天下統一が成し遂げられたのかもしれない。私は、キリスト教（フランシスコ・ザビエル）の面だけでなく、貿易面が天下統一により強く影響を与えたのだと考える。	信長は、武力で天下統一をする「天下布武」の理念で兵を従わせ、統率の取れた軍隊を作っていたことが分かった。鉄砲隊を活用した戦術で戦えたのも、統率が取れていたからだと考える。また、秀吉は信長と違い、直接戦闘することを避け、水攻めや兵糧攻めをしたり、大軍で包囲したりして、天下統一を進めたことが分かった。前回までは分からなかった「信長と秀吉の戦術の違い」について、詳しく追求することができたのでよかった。	外国との貿易がさかんになり、鉄砲や火薬などが日本に入ってきたことが分かった。またキリスト教がフランシスコ・ザビエルらによって伝えられ、信長は経済的な利益を考え、キリスト教を保護する。しかし、秀吉は大名の力が強くなることを恐れ、キリスト教を制限した。このように、二人の政策に表れているように、外国との関わりが政治に大きな影響を及ぼしていることが分かる。	信長は自由に商売ができる楽市・楽座の制度で、商工業を盛んにした。また、琵琶湖とつながる水路を整備することで利便性を高めた。秀吉は、刀狩令を出すことで、身分を区別し、生産量を向上させた。また、検地で正確に土地の広さを把握することで、年貢を確実に納めさせたことが分かった。 このように、二人は経済力を高め、豊富な資金で武器や軍隊をそろえていったことが、天下統一につながったのではないだろうか。
	発展的	発展的	標準的	発展的

総合的評価 (指導者の見取り)	予想の設定の場面では、複数の資料から、いくつも予想を立てているが、具体性に欠けるところがある。 学習計画の立案の場面では、追求する語句を見付けているが、それらをどのように調べまとめていくかについて、見通しが不十分である。 追求の場面では、貿易面と宗教面から、学習問題の解決にあたった。どちらがより天下統一に影響を与えたのか、自分なりの答えを、調べたことを根拠に導き出している。友達にアドバイスをもらったり、調べる媒体を変えたりするなど、粘り強く追求する姿が見られた。	予想の設定の場面では、複数の資料から、いくつも予想を立てている。 学習計画の立案の場面では、追求する語句を見付けているが、それらをどのように調べまとめていくかについて、見通しが不十分である。 追求の場面では、前時で出た疑問を基に毎時間の追求を続けた。追求を通して、学習問題に対する自分なりの考えを深めるだけでなく、新たな疑問を生み、それらが解決できたときには、達成感を感じている様子が見られた。	予想の設定の場面では、複数の資料から、いくつも予想を立てているが、学習問題との関連性が不明瞭なところがある。 学習計画の立案の場面では、追求する語句を見付け、調べる順番やまとめ方などを詳しく記述し、見通しのある計画を立てている。 追求の場面では、追求テーマに沿って意欲的に調べているが、記述が学習問題と対応していない。また、調べたことのみを記載し、自分の予想や今後の見通しについては、記述が不十分である。	予想の設定の場面では、複数の資料から、いくつも予想を立てている。 学習計画の立案の場面では、追求する語句について自分なりの疑問や調べたいポイントを記載しており、今後の追求に生かそうとする姿と見て取れる。 追求の場面では、追求する度に新たな疑問を見付け、調べたことと関連付けながら、複数の視点で学習問題の解決に向かっていく。信長と秀吉の両方の側面から、天下統一までの過程をよく調べている。
	B	A	B	A

資料 13 実際の子どもの記述とその評価

D児は、見通しのある学習計画を立てることができていたのだが、追求の場面ではB評価となり、総合的評価でもBとした。その理由として、①学習問題を意識して追求ができていなかったこと、②追求を通して、次は何を調べていくかを新たな疑問と関連付けて考えることが難しかったためである。このように、指導者がA評価とB評価の境界線を明確に持つことで、妥当性の高い評価につながった。

(2) 「追求カード」を生かした子どもの見取りと、次の追求へつなげる手立て

毎時間、追求をした後に「追求カード」を使って、追求の成果とまだ調べていないこと（次時に調べたいこと）を書かせた（資料4、5）。「追求カード」の記述から、追求に課題が見られる子どもを把握することができ、次時の追求へつなげる手立てを講じることに試みた（資料14）。

「武力」の視点で追求をしていたG児は、大量の鉄砲をどのように仕入れたのかという問いを持っていたが、よく分からず追求に行き詰まりを感じていた。一方、「経済力」の視点で調べていたH児が「石見銀山」「堺」「南蛮貿易」などをキーワードにして、鉄砲の大量発注・大量購入について調べていた。そのため、朱書きで「Hさんのところへ・・・」と書き、問題解決の糸口を示したことで、次時にはG児とH児が関わり合い、互いの問いを紡ぎながら追求を進めることができていた。

I児は、文章ではよく書き表しているものの、それがどういった意味なのか、文章の意味がよく分からずに学習を終えていた。そのため、言葉を言い換えた朱書きを入れることで、「そういう意味だったのか」と自分が調べたことの意味がよく分かっていた様子であった。また、そこで追求を終えることがないよう、「秀吉はどうか？」ともう一方の視点で追求することを提案して、追求を続けるよう声を掛けた。

J児は、追求のほとんどの時間を「信長と秀吉と同盟関係にあった大名たち」について調べていた。しばらく様子を見ていたのだが、学習問題を意識せず、自分の調べたいことのみを調べているように見て取れた。そこで、J児のこれまでの「追求カード」を見返したところ、鉄砲についても少し調べていた時期があったことが分かり、その鉄砲に目を向けさせるようにコメントを残した。その後、J児は同盟関係を結ぶことで、勢力を強くしていったことに加え、鉄砲の影響力についても調べ始め、学習問題の解決へ追求を続けていった。

以上のように、机間巡視と併せて「追求カード」を活用して子どもの姿を見取ることで、個々の追求状況について把握することができ、学習問題の解決に向かわせるために、個に合った声掛けを行うことができた。また、個々の追求状況について把握できたことは、その後の報告会や練り合い高め合いでも生かすことができ、子どもの一つ一つの問いを紡ぎながら学習を進めることができた。

	G児	I児	J児
課題が見られる子どもの記述	鉄砲が外国から伝わってきたことは分かったけど、どのように大量の鉄砲を手に入れたのかがどうしても分からないです。	信長にとって、本願寺のような仏教勢力はじゃまで、仏教勢力と対抗させるために、キリスト教を認めたことが分かりました。	(同盟について追求した後の「追求カード」の中で) まだ、同盟について詳しく分かっていないので、次の時間にも同盟について詳しく調べていきたいです。
問題点(指導者の見取り)	時間をかけて追求したが、追求に行き詰まりを感じている。	文章として書き表されているが、理解が伴っていない。(語句や文章の意味がよく分かっていない。)	同盟のことのみに調べていて、学習問題の解決に迫る追求ができていない。(見通しが十分に持てていない。)
それに対して指導者の朱書き	鉄砲についてよく調べているね。経済力について調べているJさんが、鉄砲の仕入れ方について調べていたよ。聞きに行ってみてね。	信長と敵対していた仏教勢力をおさえ、新しい文化を取り入れるため、キリスト教を認めたのだね。秀吉は、キリスト教に対して、どのような対応を取ったのだろうね。	同盟で自分の勢力を大きく、強くしていったのだね。(鉄砲についても簡単に追求していたので) 鉄砲の活用の仕方や入手先については何か分かったかな。
その後の子どもの変容	次時に、別の視点で調べているJ児のところへ行き、追求成果を共有し、学習問題の解決へと追求を続けていった。	信長がキリスト教に取った対応の理由について理解し、次時には秀吉の視点で「外国との関わり」について追求していった。	同盟について一区切りを付け、鉄砲について、追求を始めた。学習問題を意識して追求する姿勢が見られるようになった。

資料 14 「追求カード」を生かした子どもの見取りと講じた手立て

7 成果と課題

- 信長と秀吉の視点で追求させるのではなく、「武力」「経済力」「外国との関わり」の3つの視点で追求するよう単元を構成したことは、両者の違いに目を向けたり、考えを比較したりしながら、主体的に追求することにつながった。また、単元の終末で、学んだことを生かして二人の人物像を考えさせたことは、二人の生き方に触れ、歴史上の主な事象について理解を深めることにつながった。
- 「気付いたこと→予想」の2段階の過程を取り入れた「予想カード」を開発し、予想の設定の場面で活用したことは、根拠のある予想を立てさせるのに有効であった。また、一つ一つの予想を紡ぎながら、学習問題に対する自分の予想をまとめさせたことで、追求すべき内容が明確になり、その後の主体的な追求活動につながった。
- 自分の学びを振り返り、次時に生かすことができる「追求カード」を開発し活用したことは、自身の追求の成果と今後の課題を把握することにつながり、学びの連続性を感じながら追求を続けさせる手立てとして有効であった。また、見付けたキーワードを基に、学習問題に対する自分なりの答えを書き表す活動を取り入れたことは、表現力の育成の一助となり、学習問題を意識しながら追求を続ける姿勢にもつながった。
- 「予想の設定～学習計画の立案」「個の追求」の2つの場面で、主態の評価を見取ることができるようワークシートを開発し、事前に見取りのポイントを策定したことは、指導者が評価についての見通しを持つことにつながり、根拠のある評価を行えるとともに、授業改善を行う視点にもなった。また、子どもが記述した「追求カード」に、適宜評価をしたことは、子どもが学習問題を常に意識して追求を続け、主体的に学びに向かう態度の育成に有効であった。
- ▲ 「学習計画カード」を開発、活用したことは、一部の子どもにとっては学習の見通しを持つことにつながり有効であった。しかしながら、「どの歴史上の主な事象が、自分の追求テーマに関係するものなのかが分からない」といった子どもの姿が多く見られたのも事実である。子どもたち自身で学習計画を立て、追求活動に見通しを持つことができるような指導者の関わり方を今後も考えていきたい。
- ▲ 練り合い高め合いの場面において、信長と秀吉の人となりを考えさせることで、二人の社会的役割の理解をねらった。しかしながら、二人の個人の資質や具体的な功績の理解に留まり、それらが社会において果たした歴史的・社会的役割の考察まで深化させることができなかった。社会の変容に焦点を当てた問いを設定し、個人の功績から社会的役割へ子どもの視点を広げさせる授業づくりを目指したい。
- ▲ 次期学習指導要領では、主態の目標準拠評価をやめ、評定に入れずに個人内評価とする方針が示されている。今後は、「どの子かA評価で、どの子がB評価で…」とどう記録に残すかではなく、どのように指導に生かす評価をしていくかについて重点を置き、研究を進めていく必要があると感じた。

単元の流れ（全8時間）

過 程	具体的な学習の流れと内容	評価規準 【観点】						
	学習問題 教師の問い掛け 追求内容 予想される 子どもの反応 まとめ 本質的把握 資料 教師の働き掛け							
社会的現象との出会い(0.5)	この頃の城の様子を見てみよう。 ・湯築城の様子 ・安土城下町の様子 ・能島城の様子 ・大阪城下町の様子（豊臣期） ・湯築城や能島城の様子と比較して、安土城や大阪城の様子が違うな。 ・どうしてこのような大きな城を建てることになったのだろう。 ・安土城や大阪城の城下町はかなりにぎわっているな。誰が建てたのだろう。 ・織田信長の肖像画 ・豊臣秀吉の肖像画 信長や秀吉は何をした人なのだろう。 ・長篠の戦いの様子 ・勢力変遷図 ・主な戦国大名とその領地を示した地図(1572年頃) ・信長と秀吉は、戦いによって、勢力を広めていったのかな。 ・日本全土を支配することを「天下統一」と言い、それを達成した人だな。							
学習問題の設定(0.5)	信長と秀吉は、どのようにして天下統一を成し遂げたのだろう。	・当時の社会の様子や戦乱の世が統一されていく様子などに着目して、問いを見いだし表現している。【思・判・表】						
予想の設定(1)	・前時に提示した資料 ・予想カード（ワークシート） ・資料「長篠の合戦図」では、鉄砲を使っているよ。戦が上手で、戦いに勝って権力を広げていったのかな。 ・資料「城下町の様子」では、大きなお城が建っているよ。お金があったのかな。商売をしている人も多いね。 ・資料「城下町の様子」では、外国の人が城下町を歩いているよ。今までの学中では見られなかったことだな。何か関係がありそうだな。	・資料を基に、学習問題に対する予想を立て、解決の見通しを持つようとしている。【態度】						
学習計画の立案(1)	予想をいくつか分類し追求テーマを決め、学習計画を立てよう。 ・協働学習アプリ 共有ノート ・学習計画カード（ワークシート） ・班で協力して、共有ノート上で、出された予想を分類しよう。 ・武力、経済力、外国との関わりとの3つにまとめられそうだな。 ・どちらにも当てはまるもの、どこにも当てはまらないものもあるな。 ・一体どの要因が、天下統一に大きな影響を及ぼしたのだろう。 ・資料やみんなで話し合った予想から出てきた語句について調べると、学習問題を解決できそうだな。 ・私は、「〇〇」の視点から、信長と秀吉がどのように天下統一を成し遂げたのか調べたいな。	・学習問題に対する予想をグルーピングしたことを基に、問題解決に向けて見通しを持って、学習計画を立てている。【態度】						
個や小集団の追求(2)	追求テーマに沿って、二人がどのように天下統一が成し遂げたのか調べよう。 ・学校図書「信長・秀吉コーナー」 ・追求カード（ワークシート） <table border="1"> <thead> <tr> <th>武力</th><th>経済力</th><th>外国との関わり</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・桶狭間の戦いや長篠の戦いなど、各地の大名との戦いに勝利して、勢力を広げていったよ。 ・ポルトガルから鉄砲が伝わり、いち早くそれを戦に取り入れて戦っていたよ。 ・刀狩令によって武器を取り上げ、身分を区別し、武士の世の中をつくっていったのだね。 </td><td> ・楽市楽座の制度で、誰もが商売しやすくなり、堺の町では商業が盛んになっていったよ。 ・石見銀山で採れる銀を軍事金として使い、鉄砲を買うなどして、戦に活用していたよ。 ・検地を行い、田畑を正確に調査することで、確実に年貢を納めさせる仕組みをつくったよ。 </td><td> ・ザビエルを中心に広がっていったキリスト教を保護して、南蛮貿易を盛んに行い、南蛮文化を取り入れていったよ。 ・ポルトガルとの交流を深め、堺の町を中心に鉄砲作りが盛んに行われるようになったよ。 </td></tr> </tbody> </table>	武力	経済力	外国との関わり	・桶狭間の戦いや長篠の戦いなど、各地の大名との戦いに勝利して、勢力を広げていったよ。 ・ポルトガルから鉄砲が伝わり、いち早くそれを戦に取り入れて戦っていたよ。 ・刀狩令によって武器を取り上げ、身分を区別し、武士の世の中をつくっていったのだね。	・楽市楽座の制度で、誰もが商売しやすくなり、堺の町では商業が盛んになっていったよ。 ・石見銀山で採れる銀を軍事金として使い、鉄砲を買うなどして、戦に活用していたよ。 ・検地を行い、田畑を正確に調査することで、確実に年貢を納めさせる仕組みをつくったよ。	・ザビエルを中心に広がっていったキリスト教を保護して、南蛮貿易を盛んに行い、南蛮文化を取り入れていったよ。 ・ポルトガルとの交流を深め、堺の町を中心に鉄砲作りが盛んに行われるようになったよ。	・織田信長と豊臣秀吉の政策や業績について調べ、必要な情報を集め、読み取り、戦国の世が統一されたことを理解している。【知・技】 ・織田信長と豊臣秀吉の天下統一について、学習を振り返ったり、見直したりして、学習問題を追求し、解決しようとしている。【態度】
武力	経済力	外国との関わり						
・桶狭間の戦いや長篠の戦いなど、各地の大名との戦いに勝利して、勢力を広げていったよ。 ・ポルトガルから鉄砲が伝わり、いち早くそれを戦に取り入れて戦っていたよ。 ・刀狩令によって武器を取り上げ、身分を区別し、武士の世の中をつくっていったのだね。	・楽市楽座の制度で、誰もが商売しやすくなり、堺の町では商業が盛んになっていったよ。 ・石見銀山で採れる銀を軍事金として使い、鉄砲を買うなどして、戦に活用していたよ。 ・検地を行い、田畑を正確に調査することで、確実に年貢を納めさせる仕組みをつくったよ。	・ザビエルを中心に広がっていったキリスト教を保護して、南蛮貿易を盛んに行い、南蛮文化を取り入れていったよ。 ・ポルトガルとの交流を深め、堺の町を中心に鉄砲作りが盛んに行われるようになったよ。						

一連のプロセスとして捉え、評価する

学級集団での 練り合い高め 合い(2)	- 一つの視点で、二人の功績を調べていたけれど、それ以外の視点とも密接に関わっていそうだな。 - 他の視点で調べた友達の意見も聞いてみたいな。													
	信長と秀吉は、どのようにして天下統一を成し遂げたのだろう。													
	・追求カード (ワークシート)	・これまでに各自がまとめた学習成果物												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>織田 信長</th> <th>豊臣 秀吉</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>武力</td> <td> - 有力な大名を倒したり、室町幕府をほろぼしたりして、勢力を拡大したよ。 - 鉄砲などの新しい武器に目を付け、戦に勝利し、力を見せつけていったよ。 </td> <td> - 信長の死後、東北～九州を平定し、天下統一を成し遂げたよ。 - 刀狩によって、百姓から武器を取り上げたよ。 </td> </tr> <tr> <td>経済力</td> <td> - 楽市・楽座の制度を設けて、税や関所をなくすなどして、商業や工業をさかんにしていったよ。 - 堺などの商業都市を支配し、豊富な資金を手に入れ、武器や軍船などをそろえていったよ。 </td> <td> - 大阪を中心とした物資の流れをつくり、金や銀の鉱山を支配していったよ。 - 石見銀山の銀を軍資金として活用するなど、経済力を高めたよ。 - 検地を行い、年貢を確実に納めさせたよ。 </td> </tr> <tr> <td>外国との関わり</td> <td> - ザビエルが広めたキリスト教を保護して、南蛮貿易を中心とした外国との関わりの中で、天下統一を目指していたよ。 </td> <td> - 外国勢力の影響が国内に及ぶことを警戒して、バテレン追放令を出したよ。 - 南蛮貿易は、一部制限しながらも続けたよ。 </td> </tr> </tbody> </table>		織田 信長	豊臣 秀吉	武力	- 有力な大名を倒したり、室町幕府をほろぼしたりして、勢力を拡大したよ。 - 鉄砲などの新しい武器に目を付け、戦に勝利し、力を見せつけていったよ。	- 信長の死後、東北～九州を平定し、天下統一を成し遂げたよ。 - 刀狩によって、百姓から武器を取り上げたよ。	経済力	- 楽市・楽座の制度を設けて、税や関所をなくすなどして、商業や工業をさかんにしていったよ。 - 堺などの商業都市を支配し、豊富な資金を手に入れ、武器や軍船などをそろえていったよ。	- 大阪を中心とした物資の流れをつくり、金や銀の鉱山を支配していったよ。 - 石見銀山の銀を軍資金として活用するなど、経済力を高めたよ。 - 検地を行い、年貢を確実に納めさせたよ。	外国との関わり	ザビエルが広めたキリスト教を保護して、南蛮貿易を中心とした外国との関わりの中で、天下統一を目指していたよ。	- 外国勢力の影響が国内に及ぶことを警戒して、バテレン追放令を出したよ。 - 南蛮貿易は、一部制限しながらも続けたよ。
		織田 信長	豊臣 秀吉											
	武力	- 有力な大名を倒したり、室町幕府をほろぼしたりして、勢力を拡大したよ。 - 鉄砲などの新しい武器に目を付け、戦に勝利し、力を見せつけていったよ。	- 信長の死後、東北～九州を平定し、天下統一を成し遂げたよ。 - 刀狩によって、百姓から武器を取り上げたよ。											
	経済力	- 楽市・楽座の制度を設けて、税や関所をなくすなどして、商業や工業をさかんにしていったよ。 - 堺などの商業都市を支配し、豊富な資金を手に入れ、武器や軍船などをそろえていったよ。	- 大阪を中心とした物資の流れをつくり、金や銀の鉱山を支配していったよ。 - 石見銀山の銀を軍資金として活用するなど、経済力を高めたよ。 - 検地を行い、年貢を確実に納めさせたよ。											
	外国との関わり	ザビエルが広めたキリスト教を保護して、南蛮貿易を中心とした外国との関わりの中で、天下統一を目指していたよ。	- 外国勢力の影響が国内に及ぶことを警戒して、バテレン追放令を出したよ。 - 南蛮貿易は、一部制限しながらも続けたよ。											
	- 二人の政策や考え方には似ているところもあるし、それぞれ独自のものもあるんだね。 - どれか1つの要因で天下統一が成し遂げられたわけではなく、3つの要因がそれぞれ影響を及ぼし合い、天下統一が成し遂げられたのだね。 - 信長と秀吉が行った政策は、人々のくらしや大名にどのような影響を与えたのだろう。													
	天下統一までの功績から、二人はどのような人物であったと言えるだろうか。 ～「信長（秀吉）は〇〇な人！なぜなら…」～													
・前時に学級全体で整理した信長と秀吉の年表	・これまでに各自がまとめた追求カード (ワークシート)													
- 織田信長は、今までの古い仕組みを変え、新しいことをどんどん取り入れながら、社会をまとめようとした人だと思うよ。なぜなら、外国から伝えられた鉄砲を戦いに取り入れたり、楽市楽座の制度をつくり誰でも商業が行えるようにしたりして、天下統一を目指していたからだよ。 - 豊臣秀吉は、信長の政策や考え方を土台にして、新たな仕組みをつくりながら天下統一を果たした人だと考えるよ。なぜなら、信長の政策をそのまま続けるところもあれば、刀狩りや検地など、秀吉独自の政策を行い、社会を安定させようとした姿が見られたからだよ。														
本質的把握 (0.8)	織田信長と豊臣秀吉は、ヨーロッパとの貿易を進めたり、経済力を高めたり、制度や法を整えたりして力を高め、戦国の世を統一していった。 織田信長が天下統一の基礎を築き、その意志を受け継いだ豊臣秀吉が天下統一を果たしたことから、どちらの業績も、戦国の世を統一していくためには必要なものであり、二人が果たした歴史的な役割は大きい。													
新たな学習問題の設定(0.2)	・関ヶ原の戦いの様子	・大阪夏の陣図屏風												
- 信長と秀吉が天下統一を成し遂げたのに、また戦が起こっているよ。どうしてかな。 - 信長と秀吉が天下統一を成し遂げた後、社会はどのようになっていったのか、これから調べていきたいな。														
信長と秀吉が天下統一を成し遂げた後、社会はどのように変化していったのだろう。														

・織田信長と豊臣秀吉の政策や業績を比べたり、関連付けたりして、天下統一までの世の中の様子や変化について考え、適切に表現している。
【思・判・表】

・織田信長と豊臣秀吉が行った政策を関連付けたり、総合したりして、天下統一を果たした二人の歴史的な役割を理解している。
【知・技】

・織田信長と豊臣秀吉が行った政策を関連付けたり、総合したりして、天下統一を果たした二人の歴史的な役割について考え、適切に表現している。
【思・判・表】

予想カード

名前 ()

単元の学習問題 (みんなで解決したい問題)

信長と秀吉は、どのようにして天下統一を成しとげたのだろう。

◎ 各資料を見て、学習問題に対する予想を考えましょう。

資料番号	気付くこと	予想

◎ 学習問題に対する予想を自分なりにまとめてみよう。

① 協働学習アプリで提示された資料を見て、予想が考えられる資料の番号を記入し、根拠となる資料を明らかにする。

② 次に、選んだ資料を見て、気が付くことを記入する。
例：「〇〇がある」
「〇〇な人がいる」 など

③ 次に、気付いたことから学習問題に対する予想を考える。②→③の2段階の過程を経ることで、気が付いたことのみ記入に留まらず、根拠を見いだしながら予想を考えさせる。

④ 最後に、各資料から予想したことを総合し、学習問題に対する予想(自分なりの答え)を書く。複数の資料から予想を立て、様々な視点で自分なりの予想を書かせる。

添付資料2 根拠ある予想を立てさせるための「予想カード」

学習計画カード

名前 ()

単元の学習問題 (みんなで解決したい問題)

信長と秀吉は、どのようにして天下統一を成しとげたのだろう。

これらの予想に対する答えを追求すれば、学習問題の解決ができるはず

--	--	--

わたしは、 の視点で、追求をしていく！

選んだ理由

次時から始まる追求に向けて・・・

◎ 調べたい語句(キーワード)を書きましょう。

① どの順番で追求していくか。(理由も)

② どのような方法で追求していくか。どのようにまとめていけばいいのだろう。(自分の考えを書きましょう。)

① 学級全体で予想を紡ぎ合い、焦点化した「武力」「経済力」「外国との関わり」の3つのテーマを書き、学習問題の解決に対する道筋を確認する。

② 自分がどの追求テーマで学習問題の解決を目指すか記入する。また、選んだ理由を書くことで、学習問題に対する自分の思いを改めて考え、文章でまとめさせる。

③ 次時から始まる追求に向けて、見通しを持つために、以下のことを考える。
・ 調べたい語句は何か。
・ どのような順番で調べるか。
・ どのような方法で調べるか。
・ どのようにまとめていくか。 など

添付資料3

学習の見通しを持たせるための「学習計画カード」

予想カード

名前（ ）

単元の学習問題（みんなで解決したい問題）

信長と秀吉は、どのようにして天下統一を成しとげたのだろう。

◎ 各資料を見て、学習問題に対する予想を考えましょう。

資料番号	気付くこと	予想
資料番号	気付くこと	予想
資料番号	気付くこと	予想
資料番号	気付くこと	予想
資料番号	気付くこと	予想

◎ 学習問題に対する予想を自分なりにまとめてみよう。

学習計画カード

名前（ ）

単元の学習問題（みんなで解決したい問題）



これらの予想に対する答えを追求すれば、学習問題の解決ができるはず！

わたしは、

の視点で、追求をしていく！

選んだ理由

次時から始まる追求に向けて・・・

◎ 調べたい語句（キーワード）を書きましょう。

1 どの順番で追求していこうか。
（理由もあれば書きましょう）

2 どのような方法で追求していこうか。
どのようにまとめていけばいいのだろう。
（自分の考えを書きましょう。）

追求カード /

名前（ ）

単元の学習問題（みんなで解決したい問題）

--

今日の追求を終えて・・・

◎ 学習問題の解決に向けて、重要だと思った語句（キーワード）



◎ 上の語句（キーワード）を使って、学習問題に対する自分なりの答えを書いてみましょう。

◎ 次の時間で追求したいこと（まだ分かっていないこと、気になっていること）
例） まだ〇〇のことが分かっていないので、そのために△△していきたいです。
